

Museum Info 2018

ミュージアム・インフォメーション

春
spring

平成30年度の山梨県立美術館・文学館・博物館・考古博物館の展覧会の予定をご案内します。

※展覧会の名称は変更となる可能性があります。



企画展「芳年 激動の時代を生きた鬼才浮世絵師」

平成30年3月17日(土)～5月14日(月)

つぎおか よしとし
月岡芳年は、江戸から明治へと急激に変遷する時代に活躍した浮世絵師です。浮世絵の需要が失われつつあった当時において最も大成した絵師である芳年は、多くの作品を手がけ後世にも多大な影響を与えました。本展では芳年の初期から最晩年までの作品を展示するとともに、山梨と芳年との関わりを示す作品も併せてご紹介いたします。



月岡芳年「東名所墨田川梅若之古事」個人蔵

□観覧料／一般500円(400円)、大学生250円(200円) ()内は団体料金



100万回生きたねこ



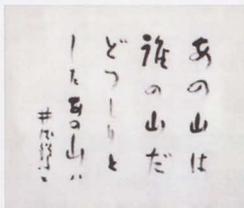
作・絵:佐野洋子(講談社刊)

開館40周年記念「100万回生きたねこ」佐野洋子の世界展

平成30年4月21日(土)～6月17日(日)

出版40周年を迎えた佐野洋子作「100万回生きたねこ」は、世代を超えて読み継がれているロングセラーの絵本です。本展ではその「100万回生きたねこ」の原画を中心に、佐野洋子のユニークで豊かな世界を紹介します。

□観覧料／一般1,000円(840円)、大学生500円(420円) ()内は団体料金



右:1966年5月 取材のため下部温泉を訪れた井伏
左:井伏「あの山は誰の山だ どつしりとしたあの山は」軸装



生誕120年 井伏鱒二展 旅好き 釣り好き 温泉好き

平成30年4月28日(土)～6月17日(日)

井伏鱒二(1898～1993 広島県生まれ)の生誕120年を記念して山梨との関わりを中心に展示します。井伏は、作家として長きにわたり活躍し、「山椒魚」「ジョン万次郎漂流記」「黒い雨」などの作品を執筆し、日本文学史に名を残しました。下部温泉、増富ラジウム温泉、疎開した甲府市・岩月家など山梨県内各地に残した足跡や、飯田蛇笏・龍太親子との交流もたどります。

□常設展観覧料でご覧いただけます。
一般320円(250円)、大学生210円(150円) ()内は団体料金



開館35周年記念特別展「古代アンデス文明展」

平成30年5月19日(土)～7月16日(月・祝)

南米大陸の太平洋岸では、南北4,000km、標高差4,500mにもおよぶ壮大なスケールの大地を舞台に、ナスカ・モチエ・ティワナク・インカなど、先史時代からスペイン人によるインカ帝国征服までの約15,000年もの間、多種多様な文化の盛衰が繰り返されました。その巨大で複雑な文明の全容はいまだ謎に包まれています。その分、地球の裏側に住む私たちの心をも捕らえて放さない魅力に満ちています。本展は、1995年の「黄金の都シカン発掘展」からはじまり、ナスカ、インカへと20年以上もの歳月をかけて開催してきた「TBSアンデス・プロジェクト」の集大成ともいえる展覧会です。いくつもの文化が連なり、相互に影響し合う中で生まれた独自の宗教儀礼や芸術、生活様式を、厳選した貴重な品々とともに紹介します。

□観覧料／一般・大学生1,080円(860円) ()内は団体料金



右:チリバヤ文化(インカ以前)のミイラ 紀元900年～1440年頃
左:黄金製の神像(モチエ文化) 紀元200年～800年頃



シンボル展「山梨の明治－新しい時代の幕開け」

平成30年5月26日(土)～6月25日(月)

2018年は、明治元年(1868)に山梨県が成立してから150年を迎えます(「山梨県」の名称は明治4年から)。「明治」とはどんな時代だったのでしょうか。西洋文化の訪れでもあり、工業化が進んだ時でもありました。生活や社会が変化していくなかで、多くの課題に取り組んでいった明治の人々の姿を振り返り、これからの時代を築いていく私たちにとってのヒントを見つけてみてください。

□常設展観覧料でご覧いただけます。 一般510円(420円)、大学生210円(170円) ()内は団体料金



明治45年(1912)の
甲府八日町(現在の
NTT甲府支店付近)
の様子

夏
summer



美術館

開館40周年記念 魔法の美術館

平成30年6月30日(土)～8月26日(日)

見て、触って、遊んで、学べる体感型メディア・アートの展覧会です。まるで魔法にかけられたように、光ったり、動いたり、映像や音が変化したりする不思議な作品たちが皆様をお待ちしています。体を動かすことで音や光をダイナミックに操ることができる作品や、絵本の世界に迷い込んだような幻想的な作品などを展示し、子どもから大人までどなたでも直感的に楽しめる展覧会です。光と影が織りなす魔法のアートの世界をお楽しみください。

□観覧料／一般1,000円(840円)、大学生500円(420円) ()内は団体料金



坪倉輝明 《七色小道》 ©teruaki TSUBOKURA



文学館

童話の花束 子どもたちへの贈り物

平成30年7月14日(土)～8月26日(日)

山梨ゆかりの作家の児童文学作品をテーマにした展覧会です。「赤毛のアン」などの翻訳とともに童話作品でも知られる村岡花子、児童文学雑誌「赤い鳥」に「蜘蛛の糸」「杜子春」を発表した芥川龍之介、少年少女向けの歴史本編集に携わった前田晁、「おかあさん童話」として数々の童話作品が親しまれた徳永寿美子、「マスの大旅行」で壮大な冒険譚を描いた太田黒克彦などの作品を紹介します。

□常設展観覧料でご覧いただけます。
一般320円(250円)、大学生210円(150円) ()内は団体料金



右:「赤い鳥」創刊号 1918年7月 表紙 清水良雄
左:「赤い鳥」創刊号に掲載された芥川龍之介の「蜘蛛の糸」



博物館



企画展 「誕生50周年 リカちゃん展」

平成30年7月14日(土)～9月3日(月)

リカちゃんが生じた1967年は、一般家庭が家電の「三種の神器」に加え、カラーテレビ・車・クーラー等に手が届くようになり、経済的にも余裕ができた頃です。リカちゃんの世界観は移り変わる時代と連動し、ファッション史や住宅事情、家族構成や世相、価値観を反映してきました。展覧会では、モデルチェンジを重ねてきた歴代のドールやハウス、様々な着せ替えファッション等を展示します。祖母・母・娘の3世代にわたって紡がれてきた少女たちの夢の世界と、映し出される日本の50年の変化を振り返ります。

□観覧料／一般500円(400円)、大学生250円(200円) ()内は団体料金



考古博物館



【レプリカ】甲斐国分寺瓦 (笛吹市)

夏季企画展 「甲斐の古代寺院」

平成30年7月28日(土)～9月2日(日)

今からおよそ1,300年前、甲斐国(山梨県)では、現在の笛吹市に県内最古の寺院である寺本廃寺が造られ、本格的に仏教が広まり始めました。やがて甲斐国分寺・国分尼寺が建立されると、寺院建築に不可欠な「瓦」の生産も盛んになり、多くの瓦窯(がよう)が誕生しました。本展では、山梨における仏教文化の礎を築いた古代寺院の様子を、当時の先端技術で造られた瓦をはじめとした貴重な遺物から読み解きます。

□観覧料／無料



美術館

開館40周年記念 銅版画の詩人 追悼 深沢幸雄展

平成30年9月1日(土)～10月8日(月・祝)

1924(大正13)年に山梨県南巨摩郡増穂町(現、富士川町)に生まれた深沢幸雄は、日本を代表する銅版画家の一人として活躍しました。本展では、銅版画の代表作を中心に、深沢本人の詩や言葉もあわせて紹介します。深沢の豊かな言葉はイメージ(図像)の世界と密接につながっており、その人生はまさに「生涯をかけてつむいだ言葉と絵の世界」であり、「人生そのものが詩画集」であったと言えるでしょう。多くの人に愛される深沢芸術の魅力に深く迫る機会となります。

□観覧料／一般1,000円(840円)、大学生500円(420円) ()内は団体料金



深沢幸雄 《星の門》 1972年



草野心平展

平成30年9月22日(土)～11月25日(日)

詩人・草野心平(1903～1988)は、蛙と富士山を愛した詩人として広く知られています。1928(昭和3)年、第一詩集『第百階級』を刊行、生命の賛美と庶民の生活感情を蛙に託し、『蛙の詩集』と呼ばれました。また、生涯にわたって富士山の詩を詠み続け、詩集『富士山』(1943年)、『富士の全体』(1977年)などで、壮大なスケールの富士を詠い、書や絵画でも富士山の魅力をダイナミックに表現しました。本展では、歿後30年を迎える草野心平の作品と生涯を紹介します。

□一般600円(480円)、大学生400円(320円) ()内は団体料金



草野心平 撮影:小林正昭



草野心平「黒富士」水彩画



右:水煙文土器(文様部分) 上野原遺跡(甲府市)
左:【山梨県指定文化財】水煙文土器 安道寺遺跡(甲州市)



秋季企画展「水煙文土器の世界」

平成30年10月6日(土)～11月25日(日)

水煙文(すいえんもん)土器は、その名の通り、渦巻く水煙を思わせる文様が特徴で、国宝・火焰土器にも劣らぬ躍動感と高い芸術性を秘めた、山梨でも屈指の縄文土器のひとつです。本展では、県内で発見された選りすぐりの水煙文土器を一堂に集め、縄文の人々の優れた感性と技術とが生み出した、山梨が誇る縄文芸術の粋をご覧ください。

□観覧料/無料



企画展「文字が語る 古代甲斐国」

平成30年10月13日(土)～12月3日(月)

近年の古代史研究は、各地の遺跡で出土した資料によって、これまでにない研究成果が相次いで発表され、山梨でも重要な資料が数多く発見されています。本展では、山梨の古代を物語る資料の中から特に「文字」に着目し、新たに明らかになってきた古代甲斐国の姿や、他地域との関わりなどをご紹介します。

□観覧料/一般1,000円(840円)、大学生500円(420円) ()内は団体料金



甲州市ケカチ遺跡出土 和歌刻書土器(甲州市教育委員会)



開館40周年記念特別展

シャルル＝フランソワ・ドービニー バルビゾン派から印象派への架け橋

平成30年10月20日(土)～12月9日(日)

シャルル＝フランソワ・ドービニー(1817-1878)は、画業の早い時期から戸外での制作をおこない、ありふれた自然が見せる美しさを主題に生涯作品を制作し続けた画家です。現実を思わせる豊かな表現力により、同時代から高い評価を確立しました。名声の確立後も新たな表現の探求を続け、印象派の先駆として位置づけられてきました。本展はドービニーの画業に焦点をあてる国内初の機会となります。

□観覧料/一般1,000円(840円)、大学生500円(420円) ()内は団体料金



《オワーズ河畔》ランス美術館 1862年 ©Christian Devleeschauwer

山梨近代人物館 第7回展示「明治を彩った山梨の人々」

The Museum of
MODERN YAMANASHI HISTORICAL FIGURES

第8回展示「甲州財閥 近代日本を駆け抜けた山梨の人々」

平成27年4月、山梨県庁舎別館にオープンした「山梨近代人物館」では、平成30年4月1日から同年9月27日まで、第7回展示「明治を彩った山梨の人々」を、平成30年10月1日から平成31年3月27日まで、第8回展示「甲州財閥 近代日本を駆け抜けた山梨の人々」を開催します。

貴重な文化財であり、また、時代を超える記憶が刻まれた県庁舎別館で、山梨県の発展を支えてきた幾多の先人たちからのメッセージを今、改めて紹介します。

山梨近代人物館 〒400-8501 甲府市丸の内一丁目6番1号 県庁舎別館2階 TEL 055-231-0988
開館時間 / 午前9時～午後5時 休館日 / 毎月第2・第4火曜日、12月29日～1月3日



冬
winter



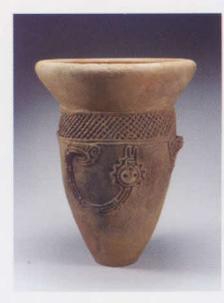
冬季企画展「山梨市の出土品Ⅰ」

平成30年12月15日(土)～平成31年1月27日(日)

自治体に専門の施設を持たない地域の遺物を紹介するシリーズ・最新版。昨年の甲斐市に次いで、今回は山梨市の遺跡と発掘品にスポットを当て、普段なかなか見ることのできない貴重な品々を紹介します。

□観覧料／無料

深鉢形土器 上コブケ遺跡(山梨市)



シンボル展「『木喰上人作木彫佛』 －身延の木喰さん、世に出るその最初－」

平成31年1月12日(土)～2月25日(月)



左:「木喰上人作 木彫佛」乙巻より
右:木喰作 弘法大師像(いずれも当館蔵)

「木喰上人作木彫佛」は、大正14年(1925)に甲・乙2種あわせて300部限定で刊行された大判写真集です。本書は木喰仏に魅せられた柳宗悦の木喰研究の集大成であり、装丁に印伝や和紙など甲州ゆかりの産物が使われていることも特徴です。本展では、平成30年に生誕300年を迎えた木喰研究の始まりなどについて、本書を中心にご紹介します。

□常設展観覧料でご覧いただけます。一般510円(420円)、大学生210円(170円) ()内は団体料金



第16回わたしたちの研究室・研究成果展示会

平成31年2月9日(土)～3月3日(日)

小・中学生のみなさんが夏休みの自由研究や学校での総合的な学習の時間に取り組んだ歴史・考古学に関する研究を展示公開します。

□観覧料／無料

自作の衣装を着て発表する様子(第14回最優秀賞・古屋朋秀さん)



企画展「県都甲府の500年」

平成31年3月16日(土)～5月13日(月)

山梨県のほぼ中央に位置する甲府。武田信虎がここに本拠を移したのは、永正16(1519)年のことでした。それから500年、甲斐府中・甲府は山梨県の中心であり続けています。この500年間の甲斐国・山梨県の政治・経済・文化の流れについて、「甲府」をひとつの切り口としてご紹介します。

□観覧料／一般500円(400円)、大学生250円(200円) ()内は団体料金



「甲府繁栄之図」(「甲府買物独案内」)(当館蔵)

※()：団体(20名以上)料金

観覧料のご案内	観覧料		常設展	特別展・企画展	定期観覧券(年間パスポート) 購入した日から1年間、常設展・企画展(特別展)を何回でも観覧できます。	ミュージアム甲斐入券 (4館共通定期観覧券)	
	美術館	一般	510(420)円	510(420)円	当パンフレットに記載されている各展覧会情報をご覧ください。	3,080円	購入した日から1年間、美術館、文学館、博物館、考古博物館の全ての常設展・企画展(特別展)を何回でも観覧できます。
	大学生	210(170)円	1,540円				
文学館	一般	320(250)円	1,540円				
	大学生	210(170)円	770円				
博物館	一般	510(420)円	2,060円	1,030円			
	大学生	210(170)円	1,330円	2,580円			
考古博物館	一般・大学生	210(170)円			5,150円	2,580円	

県内の65歳以上の方(県外65歳以上の方は常設展料金のみ)、障がい者および介護者ならびに、小・中・高校生等は、**無料**です。また、県民の日(11月20日)は、どなたでも**無料**です。

山梨県立美術館
〒400-0065 甲府市貴川1-4-27
TEL 055-228-3322
開館時間/9:00～17:00(入館は16:30まで)
休館日/月曜日(祝日の場合はその翌日)

山梨県立文学館
〒400-0065 甲府市貴川1-5-35
TEL 055-235-8080
開館時間/9:00～17:00(入館は16:30まで)
休館日/月曜日(祝日の場合はその翌日)

山梨県立博物館
〒406-0801 笛吹市御坂町成田1501-1
TEL 055-261-2631
開館時間/9:00～17:00(入館は16:30まで)
休館日/火曜日(祝日の場合はその翌日)

山梨県立考古博物館
〒400-1508 甲府市下曾根町923
TEL 055-266-3881
開館時間/9:00～17:00(入館は16:30まで)
休館日/月曜日(祝日の場合はその翌日)

